

こもれびカフェ CoCo

主催：こもれびカフェ CoCo

協力：沢渡三ツ沢地域ケアプラザ

神奈川県民活動支援センター

神奈川県基幹相談支援センター



コーヒー豆のローストした香ばしい匂いが部屋の外まで漂っている。誘われるように利用する人たちが吸い込まれていくのは、障がいのあるなしに関わらず地域の方が集い、おしゃべりを楽しむ場として誕生した「こもれびカフェ CoCo」だ。沢渡三ツ沢地域ケアプラザ（以下、ケアプラザ）を会場に、第2土曜日 14時から16時まで、月に1回のペースで開催している。

心強い仲間と始めたカフェ



アットホームな雰囲気、みんな一緒に参加できる楽しさがここにはある

カフェの代表である小森さんは、数年前からケアプラザで開催されているオレンジカフェ（認知症カフェ）で活動をする中、高齢者に限らず人が集まる居場所の必要性を感じていた。そんな中、「みんなの居場所の作り方・楽しみ方講座」（平成29年度区民活動支援センター主催）と出会い、思いを共に活動していたオレンジカフェの仲間と一緒に受講した。

この講座は、受講後にケアプラザを会場として、障がい者の余暇支援につながる居場所になるようなカフェづくりを学ぶもの。小森さんらはこの講座の中で、自分たちの地域カフェのイメージを作り、講座で知り合った受講生を含め、約10名で「こもれびカフェ CoCo」を平成30年5月にスタートした。

自主的な学びから広がるカフェへの思い



代表の小森さん（バンダナを巻いた方）

カフェをオープンするにあたり、特別支援学校や障がい者が関わるパン工房やカフェなどの見学、コーヒーの淹れ方などを、仲間たちと一緒に自主的に学び、準備を進めた。

「障がいがある人もない人も一緒にいることは普通のことだが、障がい者のことを知らないから不安に思うもの。カフェが障がい者の方と自然に関わる場になれば嬉しい。」と、小森さんは語る。

利用者をお客さんにしない



運営費は区社協のふれあい助成金を利用している。参加費は1人200円。焼き立てパンと豆から挽くコーヒーが自慢で、利用者をお客さんにしないのもこの特徴。パンは第一次発酵まで事前に準備し、利用者にはパンづくりを楽しんでもらう。希望すれば、コーヒー豆を自分で挽き入れることもできる。「自分で淹れたコーヒーは味がまろやかな感じがする」と体験した地域の方は言う。

スタッフは毎月運営会議を開き、どうしたら楽しいカフェになるか全員で意見交換を行っている。回を重ねるごとにプログラムを改良し、パンづくりやコーヒーを淹れるほか、歌や体操、紙芝居などの体験を増やしている。「初対面で何もないと話は弾まない。一緒に体験することで会話が生まれやすくなります。」と小森さんはカフェを参加型にした理由を説明する。

ここからさらに広がり



地域の方にサービスをするスタッフさん

昨年一年間の平均利用者は17名。そのうち障がいのある方の利用は、スタッフとして活動している方も含め6名ほど。作業所での平日の仕事以外の土日の居場所を求めている障がい者の方が多いこともあり、ここを利用する方がさらに増えることが望まれる。

障がい者の方の利用の多くは、区基幹相談支援センターや区社協から紹介された方。障がい者の方の利用には、自分ができることを増やし、可能性や達成感を味わってほしいという思いがある。「ここは、障がい者が主役になれる場、やりがいがある場なのです」と優しく微笑む小森さん。

焼き立てパンと淹れたてコーヒー、そして障がいのあるなしにかかわらず利用してくれる方全員で楽しむ参加型のスタイルが自慢の「こもればカフェ CoCo」。「障がい者の方が受け身ではなく、自分から行動してくれるのが嬉しい」とはスタッフの言葉。ここは、障がい者の方がやりがいを感じ、みんなが一緒になって参加する、そんな優しいカフェとしてあり続けることだろう。

【こもればカフェ CoCo】

開催日時：第2土曜日 14時～16時
利用料：200円（小学生以下100円）
会場：沢渡三ツ沢地域ケアプラザ